

278 「TOP 生であるということ」

こんにちは。塾長の大井です。

8期生受験戦記最終回です。

最後にSさんの合格体験記タイトル「TOP 生であるということ」の結びの部分です。

『私が TOP にて本当によかったという理由の4つ目は、これまでの3つを結集して言うとすべて想いがつまっている、ということだ。先生たちの指導には目の前の生徒に対してできることを全てやりきり、必ず合格させるんだという想いがこもっているからこそ、あそこまでいねいにわかりやすく教えてくれるし、必要なとき叱ってくれるのだと思う。つまり先生はいつも100だということで、そこにしがみついた人が合格者なのだということをととても実感した。儀式をやるという TOP 特有なものも、生徒をふるいたたせようという先生の真意があるからやることだ。そしてそこに生徒の100の想いが向くことによって、その式はとても意味のあるものになる。

つまりすべての想いがつまっていることによって成り立っているということだ。だからこそ一つ一つの儀式を自分の想いを 100 にして受けるということを忘れてはならないと感じた。

そしてたてのたすきがつながれているということ。これはまちがいになく TOP のこれまでの合格者たちの後輩たちへの想いがあるからできていること。そして最も大切な横のたすきは、それぞれが横のたすきで刺激を受けて刺激を与えて、想いを持つことによって、横を原動力にして合格に向かって努力をするという想いを持って、それぞれが戦うことが大切だと思う。この想いという全てを動かすものを一番大切にしていたのが TOP だったと思う。

私は TOP で人生の宝物と言えるようなものをたくさん得ることができたと思う。その全てを雙葉でも六年間ずっと大切にしていって、雙葉に受かって本当によかったと思えるような幸せな受験生であることを大切にしていきたい。』

Sさんは決して雄弁なタイプではありませんでした。それでもその心はこんなにも熱いものを秘めていました。この体験記を読んだ時、

Sさんが受験した6校全ての学校で全勝した本当の理由が分かった気がしました。紛れもなく彼女はTOP 史上最高のキャプテンの1人でした。

RさんもSさんもKさんも、私たちはいまだにずっと教え子たちにその偉業を語り継いでいます。彼女たちの体現したTOPismは、ずっとTOPに、後続く後輩たちの心に生き続けることでしょう。

卒業式で、3人に伝えなかったことは1つだけでした。

「先生は、先生たちは、君たちのような生徒と、君たちとしたような受験がしたくて、このTOPを作った。

桜蔭合格、雙葉合格、本当におめでとう！そして本当にありがとう。

君たちは先生の誇りだ。」

(8期生受験戦記・完)

2025年1月25日

大井 雄之

